

平成27年度 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果の概要について

1 目的

- (1) 都教育委員会は、学習指導要領に示されている教科の目標や内容の実現状況及び、読み解く力に関する定着状況を把握し、全都における教育行政施策に生かす。
- (2) 区市町村教育委員会は、教育課程や指導方法等に関わる自地区の課題を明確にし、その充実・改善を図るとともに、自地区の教育行政施策に生かす。
- (3) 各学校は、教育課程や指導方法等に関わる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (4) 都教育委員会は、都民に対し、東京都の公立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める

2 実施日 平成27年7月2日(木)

3 対象学年 都内公立小学校 第5学年 都内公立中学校及び中等教育学校 第2学年

4 調査内容

(1)	児童・生徒の学力向上を図るための調査	
	【小学校】4教科:国語・社会・算数・理科 【中学校】5教科:国語・社会・数学・理科・外国語(英語)	
	A 「学習指導要領に示されている教科の目標及び内容」の実現状況に関する内容	
	B 「読み解く力」の定着状況に関する内容	
	【取り出す力】文章や図表、グラフ等を手がかりに、問題を解くのに必要な情報を正確に取り出す力	
	【読み取る力】取り出したいいくつかの情報を比べたり、関連付けたりして、問題の内容を読み取る力	
	【解決する力】読み取った内容と、自分の知識や経験とを照らし合わせて、意図や背景、理由を考えて解決する力	
	※A・Bは説明上、事務局が追記した表現。	
(2)	児童・生徒質問紙調査	児童・生徒の生活や学習に関する意識や実態に関する調査
	学校質問紙調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査

5 調査結果

東京都の示す最終結果より引用

【平均正答率 %】

	小学校 第5学年								中学校 第2学年							
	武蔵野市				東京都				武蔵野市				東京都			
	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計
国語	74.3 (+7.1)	39.5 (+5.9)	【34.8】	69.6 (+7.1)	67.2	33.6	【33.6】	62.7	65.4 (+7.7)	48.0 (+14.6)	【17.4】	62.9 (+8.6)	57.7	33.4	【24.3】	54.1
社会	68.4 (+7.9)	54.2 (+8.1)	【14.2】	64.7 (+8.1)	60.5	46.1	【14.4】	56.8	62.1 (+9.6)	61.6 (+12.4)	【0.5】	62.0 (+9.3)	52.5	49.2	【3.3】	51.9
数学 算数	75.8 (+8.2)	54.4 (+8.0)	【21.4】	71.8 (+8.1)	67.6	46.4	【21.2】	63.6	69.4 (+11.9)	63.2 (+11.9)	【6.2】	68.1 (+11.1)	57.5	51.3	【6.2】	56.2
理科	76.7 (+6.2)	65.1 (+7.7)	【11.6】	74.0 (+6.7)	70.5	57.4	【13.1】	67.4	61.8 (+7.5)	42.2 (+6.6)	【19.6】	56.5 (+6.5)	54.3	35.6	【18.7】	49.3
英語									76.6 (+12.8)	54.8 (+13.2)	【21.8】	71.9 (+12.3)	63.8	41.6	【22.2】	59.0

※武蔵野市の結果の下段()は、「都との差」。「都との差」及び「ABの差」については、事務局で追記した数値。

6 今回の調査から分かる本市の児童・生徒の学力の状況

- 教科、A問題、B問題の全てで東京都の平均正答率を上回っており、基礎的・基本的な学習内容とともに、読み解く力の定着の程度が高いといえる。
- 中学校の国語及び社会は、A問題とB問題の差が東京都と比べて少ないことから、「学習指導要領に示されている教科」の基礎的・基本的な学習内容を活用し、「取り出し」「読み取り」「解決する」、「読み解く力」の定着の程度が高いといえる。
- ▲ 上記の2つの教科以外は、A問題とB問題の差が東京都とほぼ同じであることから、さらに「読み解く力」の向上に向け、授業改善を図っていく必要があるといえる。